NPO 法人岡崎がくどうの会

第 40 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】（なかよしクラブ）　【名前】（　　吉川美里　　）【立場】　（　指導員　）

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。
第（　9　）分科会　　名称（　　子どもの自発性を引き出す方法　　）

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

分科会のテーマである『方法』という言葉を見て、保育という世界においてどうやって話を進めていくのだろうと、とても興味を持ちました。方法とは？に対し、分科会が始まって最初に　“そんなものはありません！”と大きな文字が目の前に表示されて驚きました。聞いていくうちに　子どもの心の中にあるものを受け止めて、気持ちやそうしたい思いをしっかり聞き、共感していくことの大切さがよく伝わってきました。言葉にするとさらっとまとめられてしまいますが、現場では本当はそれが一番難しい。だからこそこの分科会も参加者が多かったように思います。

“自発性”というワードを聞いて色々な意味が浮かんでくると思います。そして自発性を引き出す方法というテーマは単純ではない意味深さを感じます。子どもたちの心を多角的に捉え、考えること。講義の中で　まずは自分たち大人の無気力さの理由から考えるところは非常に面白い視点・発想だと思いました。

保育の事例ではないですが分かりやすい例に、病院に行った時の医者の対応がありました。「痛いならシップ出しとくね。」など　“思い”を聞いてもらえず、決めつけて淡々とした医者の対応だった場合どう思うか　という話がありました。「どういった時にこうなったの？」「いつから？どんな調子？他にはどう？」など、全部分かってもらった上で治療してもらえると、大人でも安心感があります。保護者、指導員、大人の葛藤、子どもの思いは目的も違い、いかに共感し心の奥の気持ちに近づけるかだと思いました。

人はそれぞれ目線を持っていて、心の動きがあってから行動に至ります。これは大人も子どもも一緒だということです。目線と心の動きに影響を与えるのは“経験”で、“理解に苦しむのは大人と子どもは経験値が違うから”　という言葉がとても印象的でした。子どもはその不安を回避するためにそのような行動をするということ。誰かに聞いてほしい、共感してほしい、そうせざるを得なかった　困っている気持ちと目線を大切に、お互い居心地が良い空間であると良いということです。

子どもの行動の裏側の発しているメッセージに想像を働かせ、目線と想いに注目したうえでの“チューニング”が大切だと感じました。子どもにプラスを求めて負担を増やすのではなく、子ども、保護者、指導員みんなが思いを伝え合えるよう、相談や調整工夫を考えていきたいです。